

2021年7月14日

学修歴・成果の可視化と教学責務――

DX時代におけるIRの本質的な存在意義と機能強化の方向性

～ IRが、大学教育や大学文化の破壊者とならないために、
いま本当に考えなければならないこと ～
【8月5日（木）開催】

ご参画・ご派遣のお願い

7月8日に文科省HPで「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」の事業実施機関の取組概要が公表されました。ポストコロナ時代に向けた情報環境整備と新たな教育手法の先導的モデルへの支援ということで、2020年度第3次補正予算枠で公募されたものです。取組例「学修者本位の教育の実現」が44件、取組例「学びの質の向上」が10件、計54件が採択されました。申請数は252件でしたので、貴大学等におかれても、この1月は計画調書の作成に精励されたことと存じます。

さて、54大学等の「取組概要」（A4判1枚）を通覧すると、<機関全体のDX推進計画> <本事業で取組む内容> <目標、手段・方法、得られる成果>等について、たいへん貴重なコンセプト・プランが満載であります。事業実施について、具体的な年度工程表は求められていないようですが、今後、各大学等におかれての実績をフォローして参りたいと思います。

学生一人ひとりの入学前から卒業後までの“EM”、大学としての教育・研究・社会貢献等の“IR”は、加速する“DX”時代において、益々、重要な活動領域となっております。

本セミナーでは、EM・IR分野のフロントランナーでおられる福島 真司氏に、ホットな大学状況を踏まえ、新たな課題と今後の方向性について、論展・提言をいただきます。